

令和2年度 島田市総合計画市民意識調査の結果について（報告）

表題について、以下のとおり調査を実施しましたので、結果について報告します。

1 調査の概要

市民意識を調査し結果の経年変化を分析することにより、施策の評価や総合計画の進捗管理及び後期基本計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

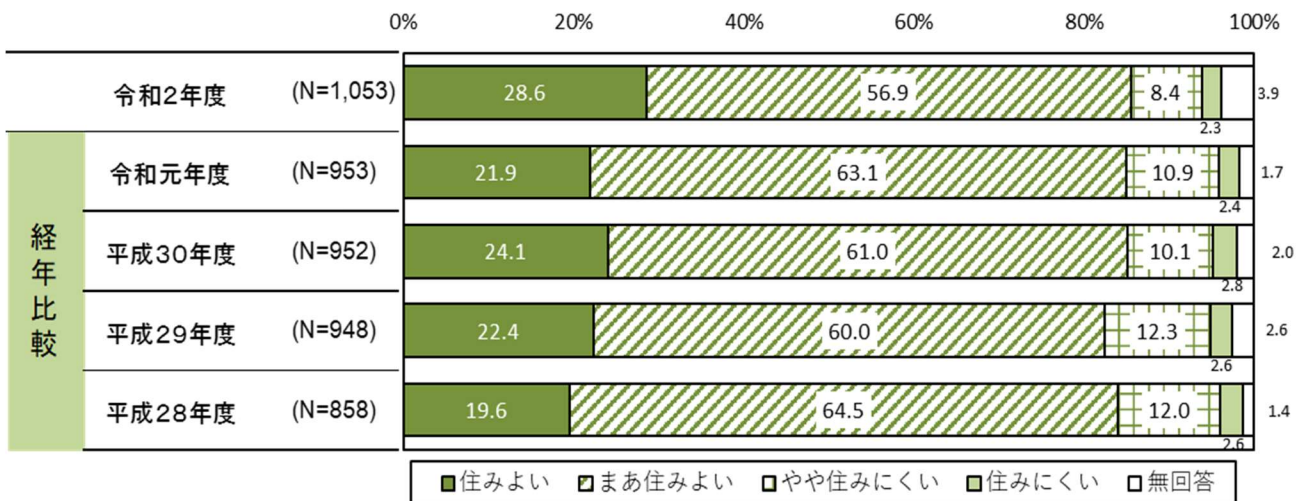
調査対象：市内在住の18歳以上の男女2,500人	実施期間：令和2年7月28日～8月17日
調査方法：郵送調査法（WEB回答も可）	有効回収数：1,053票（前回953票）
抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出	有効回収率：42.1%（前回38.1%）

2 調査結果

●島田市での暮らしについて

◆島田市の住みごころについて、85.5%の人が『住みよい』と回答しています。

「住みよい」28.6%（前回21.9%）、「まあ住みよい」56.9%（前回63.1%）を合わせると85.5%となり、前回調査結果（85.0%）から横ばいで推移し、平成28年度以降、8割を超える割合を維持しています。「住みよい」と「まあ住みよい」を合計した割合は横ばいでしたが、「住みよい」は6.7ポイント高くなり、平成25年度の調査開始以降最高となりました。

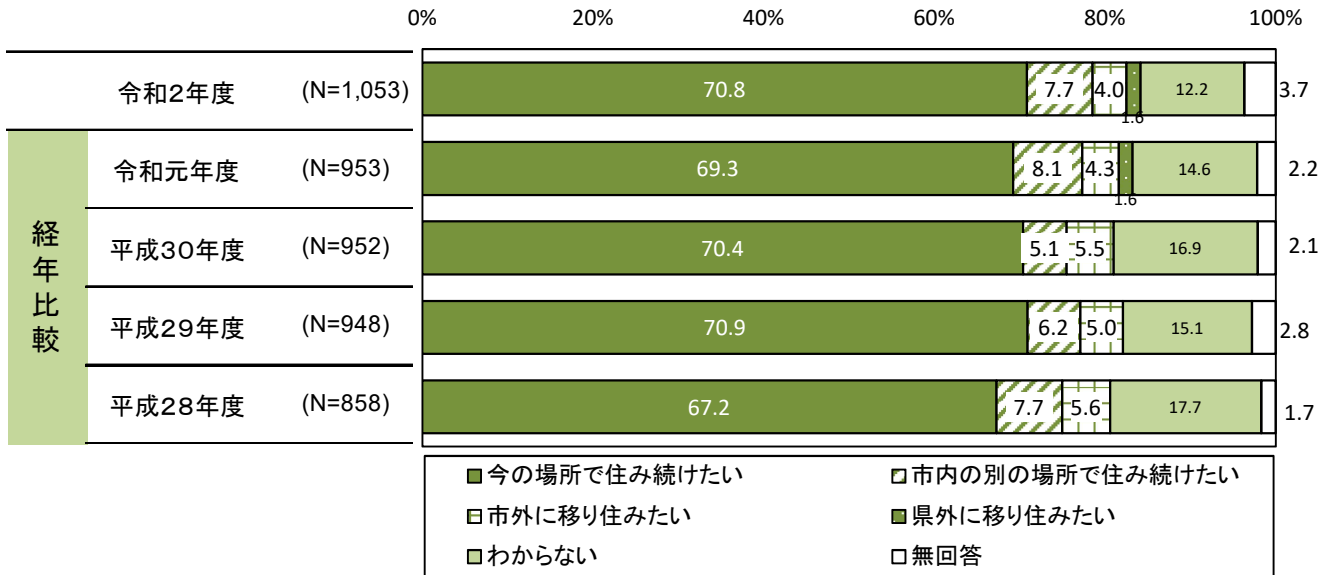


※県内他市調査結果（参考）

- ・ 藤枝市…『住みやすい』79.1%(H26) 設問「あなたにとって藤枝市は住みやすいですか。」
「たいへん住みやすい」32.4%「やや住みやすい」46.7%
- ・ 焼津市…『暮らしやすい』69.0%(R1) 設問「焼津市は暮らしやすいところですか。」
「暮らしやすい」28.2%「どちらかといえば暮らしやすい」40.8%
- ・ 菊川市…『住みやすい』87.0%(R2) 設問「菊川市は住みよいところだと感じますか。」
「住みやすい」26.5%、「どちらかといえば住みやすい」60.5%
- ・ 掛川市…『住みやすい』78.4%(R2) 設問「あなたにとって掛川市は住みやすいところですか。」
「とても住みやすい」17.4%「どちらかといえば住みやすい」61.0%

◆島田市への定住意向について、78.5%が『これからも島田市に住み続けたい』と回答しています。

「今の場所で住み続けたい」70.8%、「市内の別な場所で住み続けたい」7.7%を合わせると、78.5%となり、前回調査結果（77.4%）と比較し1.1ポイント高くなり、平成28年度以降、7割を超える水準を維持しています。



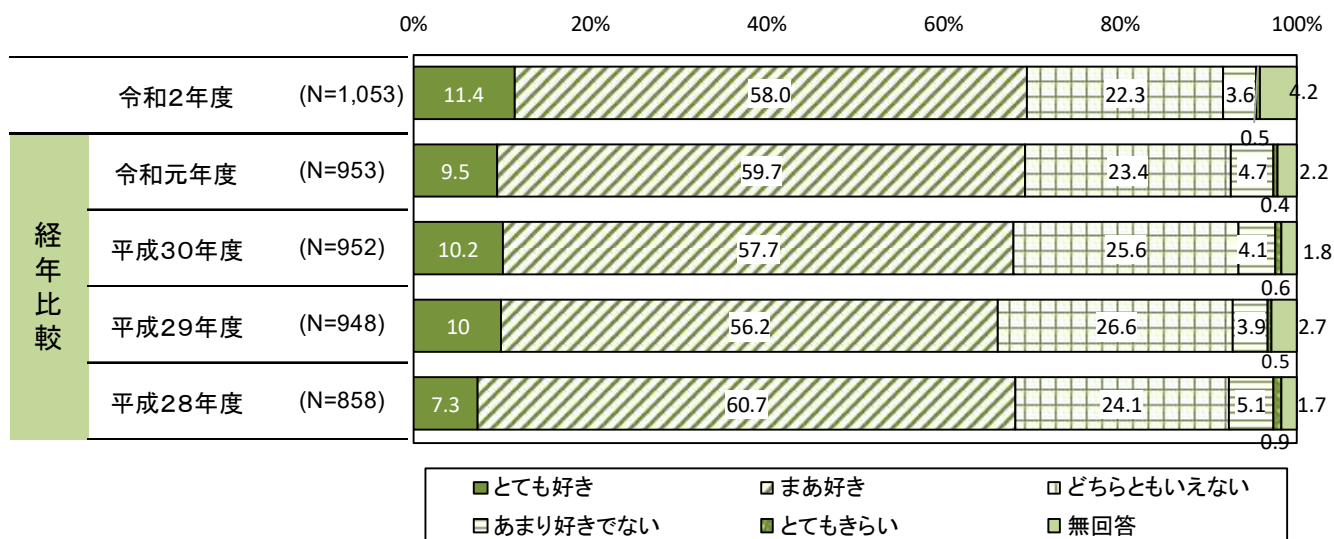
※県内他市調査結果（参考）

- ・静岡市…『住み続けたい』：88.8%(R1)
設問「あなたは、これからも静岡市に住み続けたいと思いますか。」
「そう思う」57.7%「ある程度、そう思う」31.1%
- ・藤枝市…『住み続けたい』：90.1%(H26)
設問「これからも、現在の場所に住み続けたいと思いますか。」
「住み続けたい」81.3%「できれば転居したい（市内に）」8.8%
- ・焼津市…『住み続けたい』：72.6%(R1)
設問「あなたは、これからも焼津市に住み続けたいと思いますか。」
「住み続けたい」：41.3%「どちらかといえば住み続けたい」31.3%
- ・菊川市…『住み続けたい』：62.9%(R2)
設問「今後も菊川市に住み続けたいと思いますか」
- ・掛川市…『住み続けたい』：83.1%(R2)
設問「あなたは、今後も掛川市に住みたいと思いますか？」
「今のところにずっと住み続けたい」74.2%「市内の別の場所に移り住みたい」8.9%

◆島田市に対する好感度について、69.4%が『島田市のこと好き』と回答しています。

「とても好き」11.4%、「まあ好き」58.0%を合わせると69.4%となり、前回結果（69.2%）と比較し0.2ポイント高くなりました。

調査を開始した平成28年度以降、ほぼ同水準で推移しています。



●島田市の取組に対する満足度と重要度について

◆満足度（点数）※が高いのは、8年連続で「ごみ・リサイクル対策」（第1位）、「健康の増進」（第2位）です。

重要度（点数）※が高いのは、「医療の充実」（第1位）、「地震・水害など災害に強いまちづくり」（第2位）です。

令和2年度順位	満足度（点数）	重要度（点数）
第1位	ごみ・リサイクル対策	医療の充実
第2位	健康の増進（健康診断や予防対策）	地震・水害など災害に強いまちづくり
第3位	水資源・水環境の保全	水資源・水環境の保全

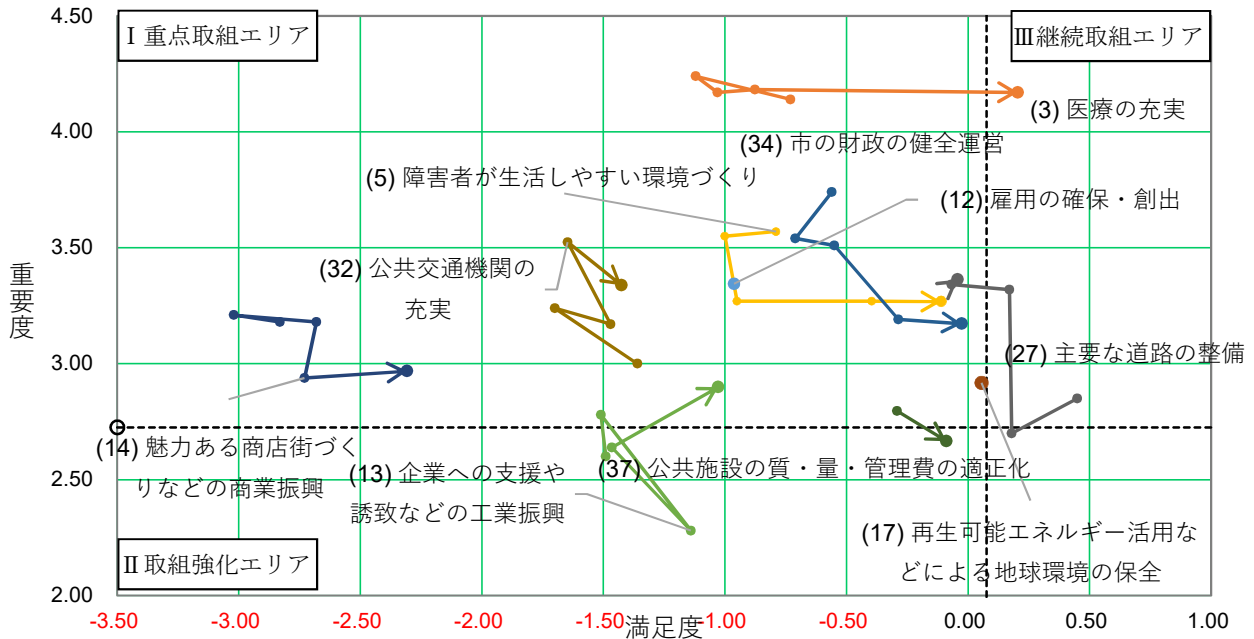
※満足度（重要度）の回答を点数化（5点、3点、0点、-3点、-5点）し、その平均値を計算した指標です。

◆令和2年度調査結果において、満足度が低く重要度が高い「重点取組エリア」に属しているのは以下の8項目です。

政策分野1＜防災・福祉・健康について＞ ・（5）障害者が生活しやすい環境づくり	政策分野3＜産業について＞ ・（12）雇用の確保・創出 ・（13）企業への支援や誘致などの工業振興 ・（14）魅力ある商店街づくりなどの商業振興
政策分野4＜環境・自然について＞ ・（17）再生可能エネルギー活用などによる地球環境の保全	政策分野6＜都市基盤について＞ ・（27）主要な道路（地域間を結ぶ比較的大きい道路）の整備 ・（32）公共交通機関の充実
政策分野7＜行財政について＞ ・（34）市の財政の健全運営	

※政策分野2及び5については、「重点取組エリア」に属する取組はありませんでした。

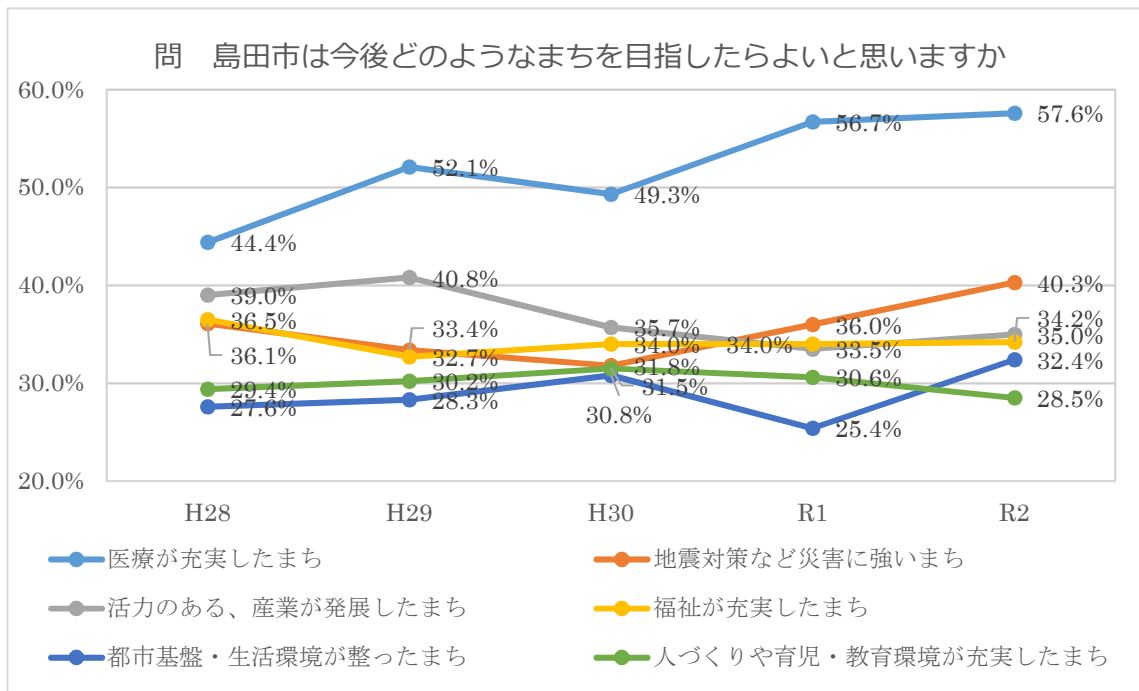
重点取組エリアに属する取組項目の経年変化を見ると、今年度の調査においては、新規調査項目を除き、すべての項目において満足度が上昇しています。(3)医療の充実、(37)公共施設の質・量・管理費の適正化については、令和元年度の調査では「重点取組エリア」に属していましたが、令和2年度の調査ではこのエリアから外れています。



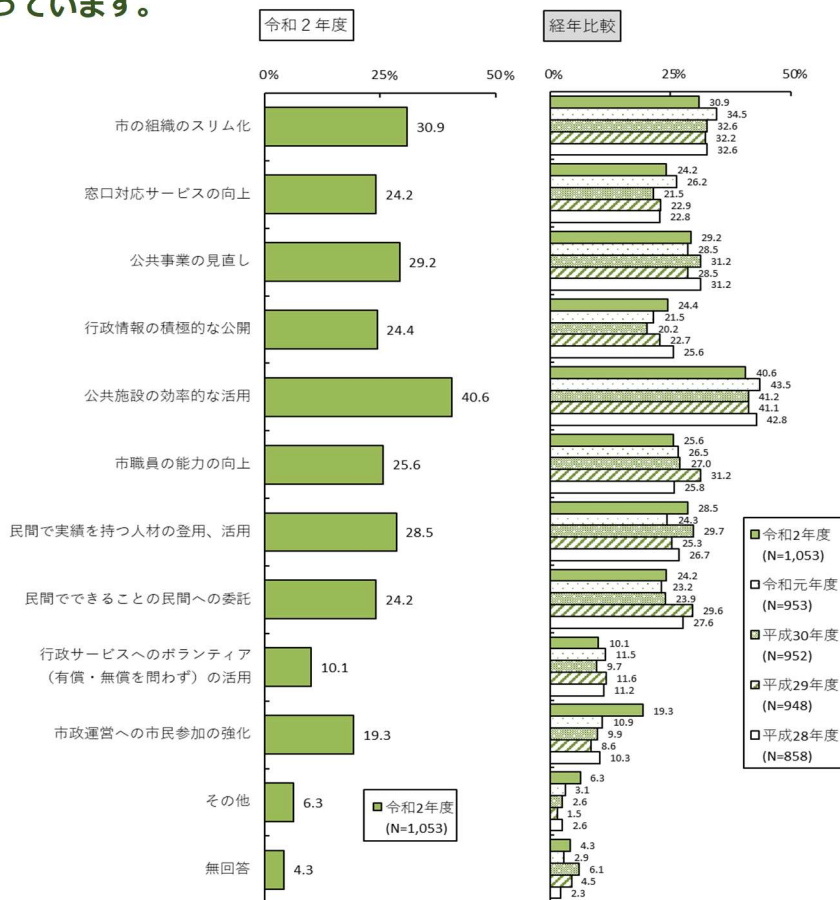
●今後の市政の取組について

◆島田市が今後どのようなまちを目指したらよいかについては、57.6%の人が「医療が充実したまち」と回答しました。

「医療が充実したまち」は8年連続で第1位に位置しています。また、その他の上位項目も、継続して上位に位置しています。



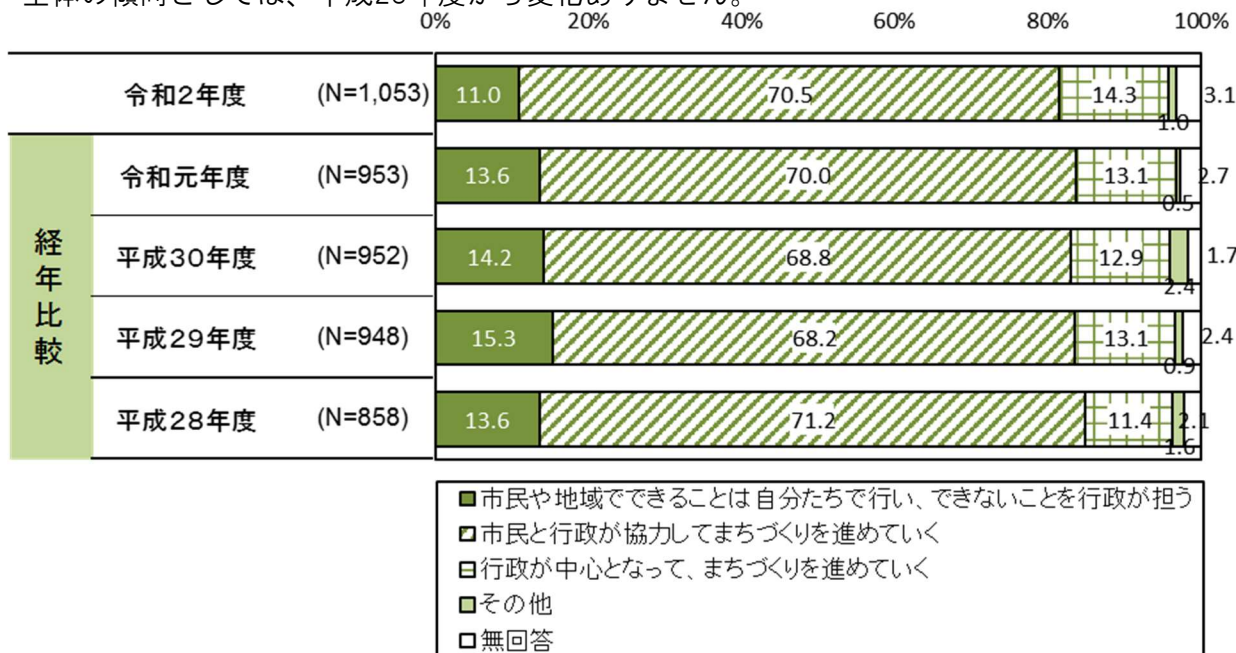
◆島田市の行政運営について今後望むことについては、「公共施設の効率的な活用」と回答する割合が最も高くなっています。



●市民協働の取組について

◆今後のまちづくりをどのように進めればよいかについては、70.5%が「市民と行政が協力してまちづくりを進めていく」と回答しています。

全体の傾向としては、平成28年度から変化ありません。



●市民の幸福感について

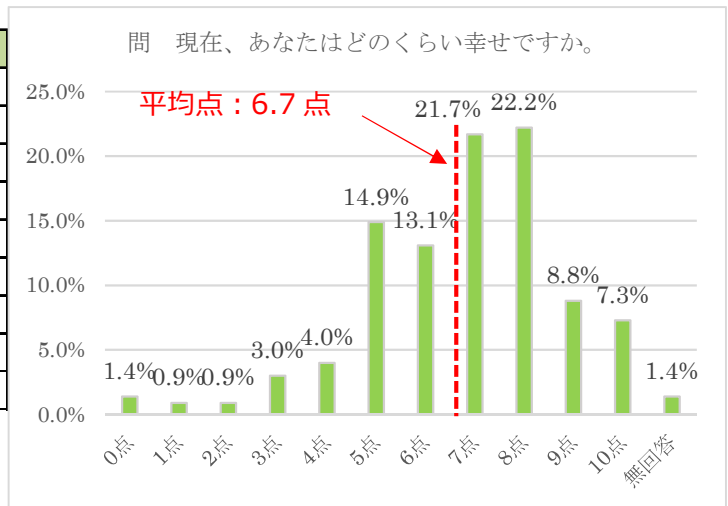
◆市民の幸福感を点数化すると、平均6.7点/10点満点（全国平均6.4点）でした。

過年度と比較し+0.2点となりました。なお、回答のばらつき（分散）は、例年並みで、平均点を境に前後の得点、5点、6点、7点、8点に回答がまとまる傾向が継続しています。また、男性の平均点よりも、女性の平均点の方が高い傾向に変わりはありません。

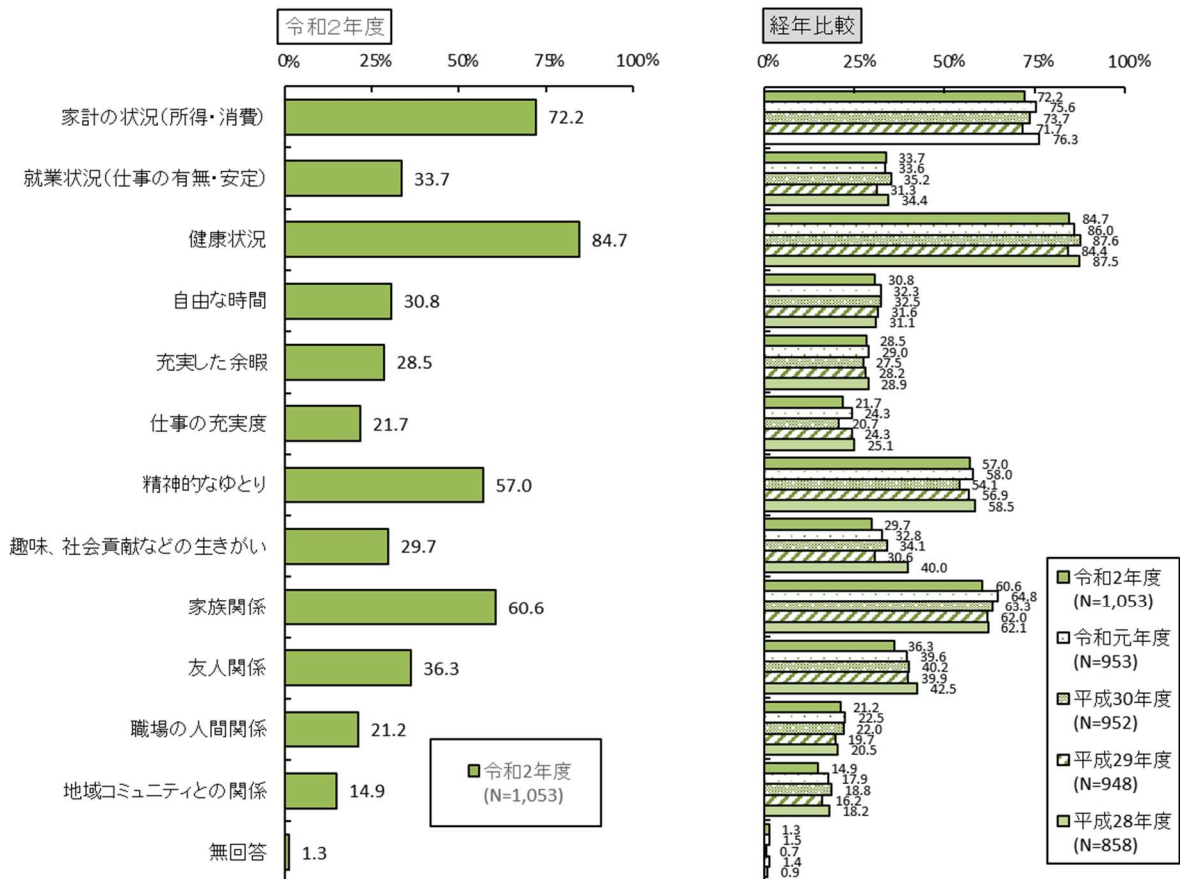
幸せであるために重要な事項については、上位から「健康状況」「家計の状況（所得・消費）」「家族関係」「精神的なゆとり」「友人関係」で、平成25年度調査以降、上位5項目に変化はありません。

		平均点(無回答を除く)
島田市	令和2年度	6.7
	令和元年度	6.5
	平成30年度	6.6
	平成29年度	6.6
	平成28年度	6.6
	平成27年度	6.7
	平成26年度	6.6
平成25年度	6.7	
全国	平成26年	6.4

資料：厚生労働省「健康意識に関する調査」（平成26年）



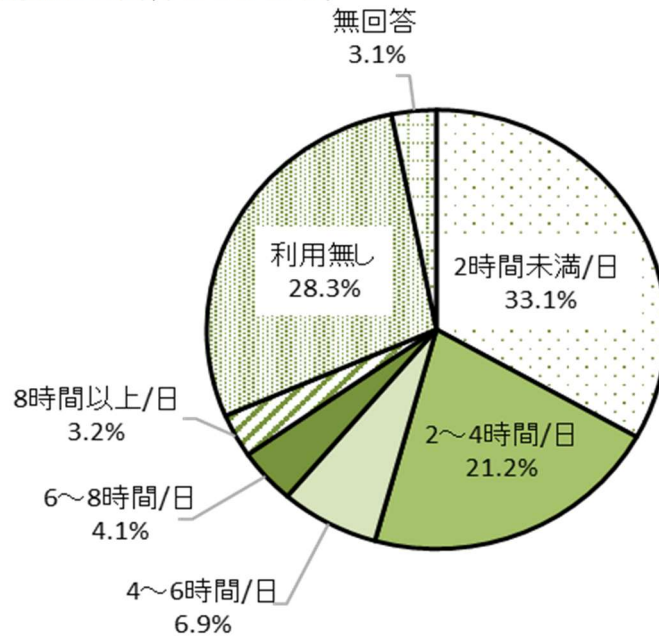
幸せであるために重要な事項の調査結果



●インターネットの利用について

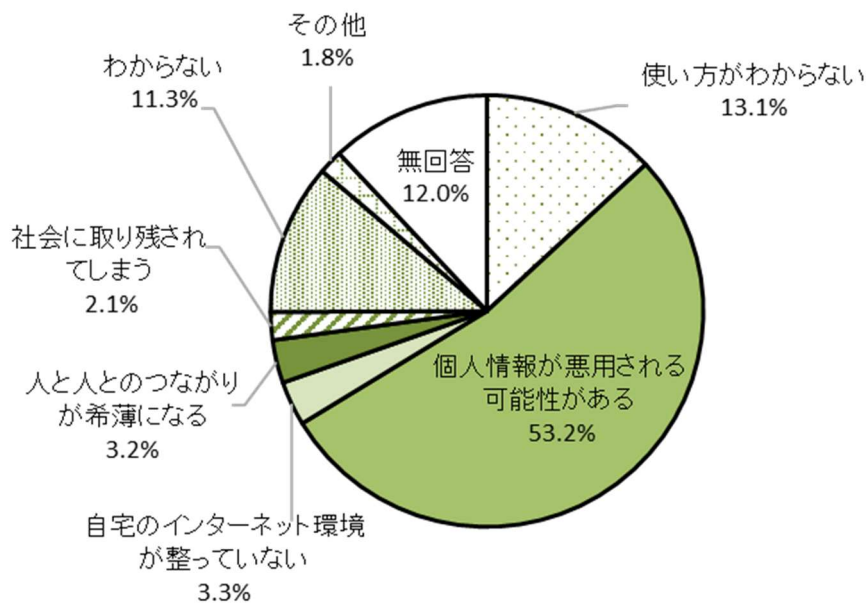
◆インターネットをプライベートまたは仕事で利用している人は、68.5%でした。また、最も多い一日の平均利用時間は「2時間未満」、次いで「2～4時間」でした

利用無しと回答した人の9割以上が60歳以上の人で、70歳～79歳、80歳以上においては、回答者の半分以上が利用無しと回答しています。



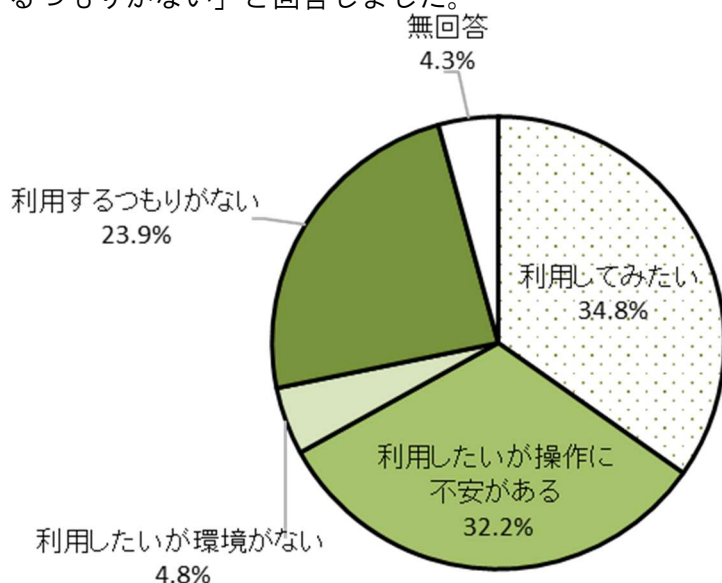
◆インターネットを活用することについての不安については、53.2%が「個人情報が悪用される可能性がある」と回答しました。

若い人ほど「個人情報が悪用される可能性がある」の回答割合が高く、70歳以上になると、「使い方がわからない」の割合が上がります。



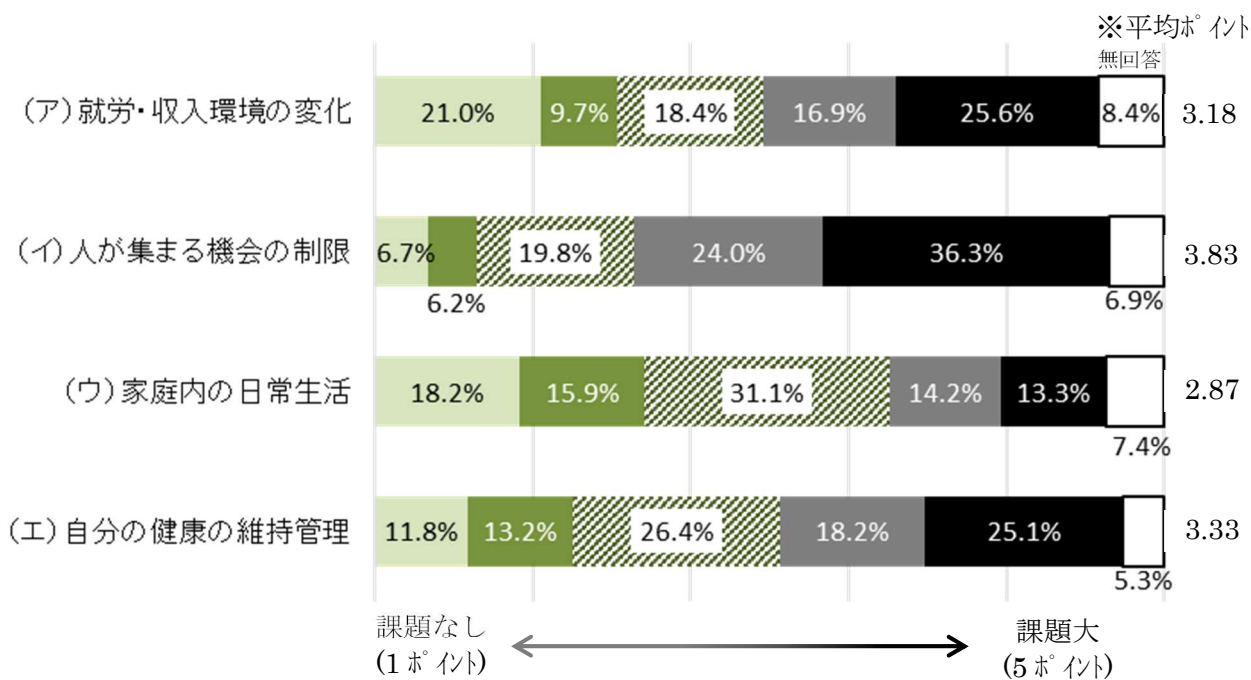
◆市役所での各種申請や届出をオンライン上でできれば利用したいかについて、71.8%の人が『利用したい』と回答しました。

「利用するつもりがない」については70歳以上に多く、70～79歳で約4割、80歳以上で約5割の方が「利用するつもりがない」と回答しました。



●新型コロナウイルス感染症について

◆新型コロナウイルス感染症の影響として最も課題を感じているのは、「(イ)人が集まる機会の制限」となっています。

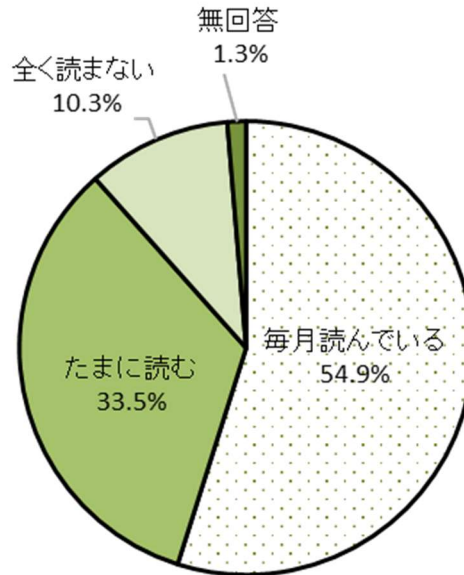


※課題無し（1ポイント）から課題大（5ポイント）までの回答数に応じたポイントの合計における平均値を計算したものです。

●島田市の情報発信について

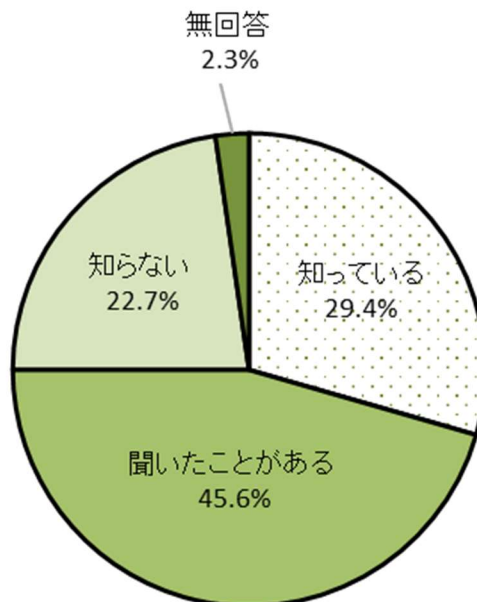
◆広報しまだを読んでいる人は、88.4%でした。

「毎月読んでいる」が最も多く、次点が「たまに読む」となっています。「全く読まない」は30歳未満に多く、18歳～29歳は約4割、30歳～39歳は約2割が「全く読まない」と回答しています。



◆島田市緑茶化計画については、29.4%が「知っている」と回答しました。

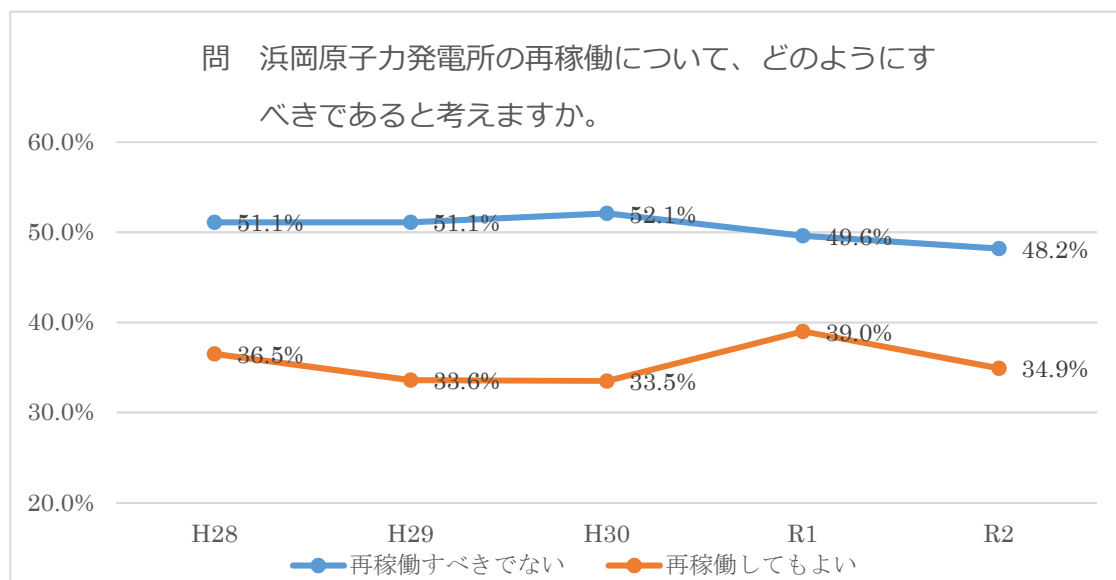
最も多いのは「聞いたことがある」の45.6%でした。年代、性別、居住地区による差については、ほとんどありませんでした。



●浜岡原子力発電所について

◆浜岡原子力発電所については、48.2%が『再稼働すべきでない』、34.9%が『再稼働してもよい』と回答しました。

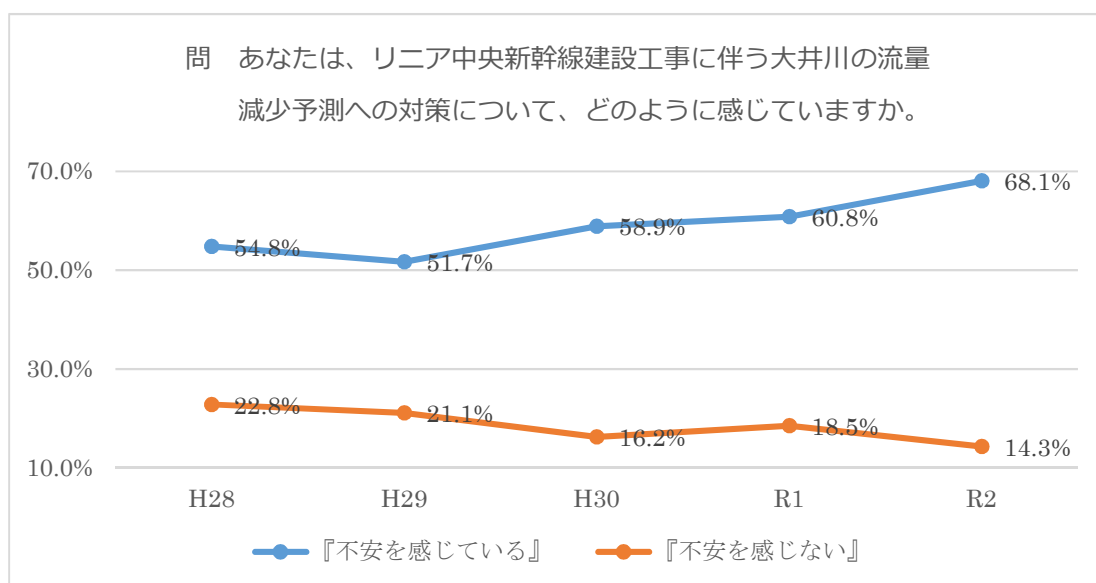
令和元年度は『再稼働すべきでない』の回答割合と『再稼働してもよい』の回答割合の差が縮小しましたが、今年度調査結果では両者の差が拡大しました。



●リニア中央新幹線の建設工事について

◆建設工事に伴う大井川の流量減少予測への対策について、68.1%が『不安を感じている』と回答しました。

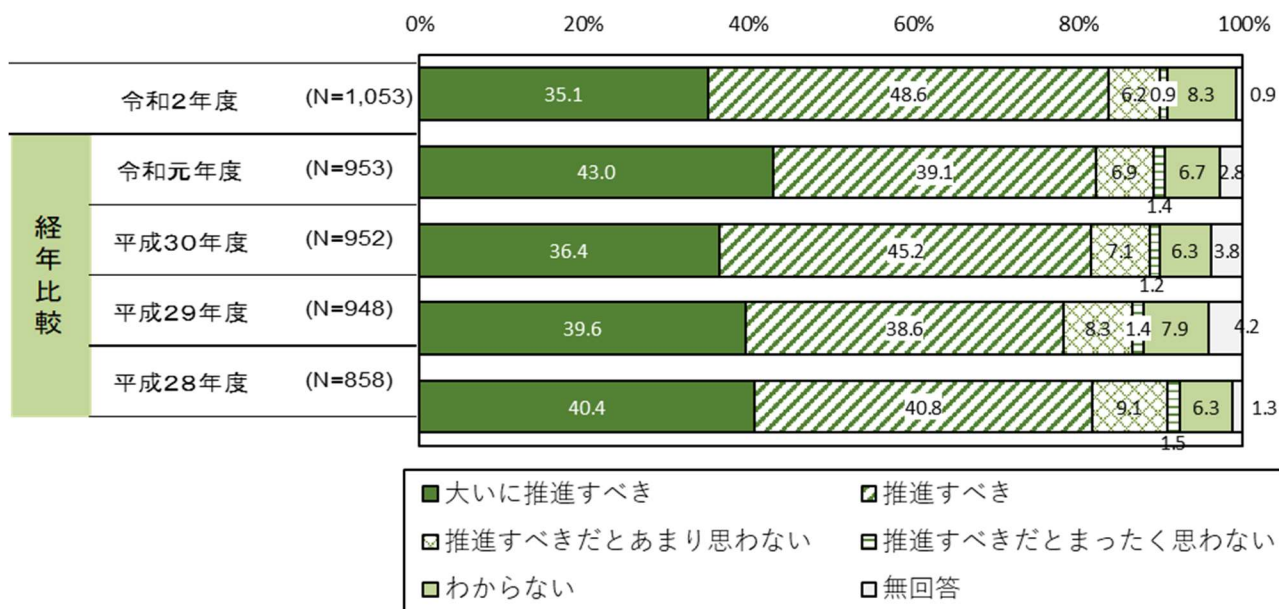
『不安を感じている』は、前回と比べて7.3ポイント高くなっています。一方、『不安を感じない』と回答した人は14.3%となり、前年調査結果（18.5%）に比べ4.2ポイント低くなっています。



●女性の社会進出について

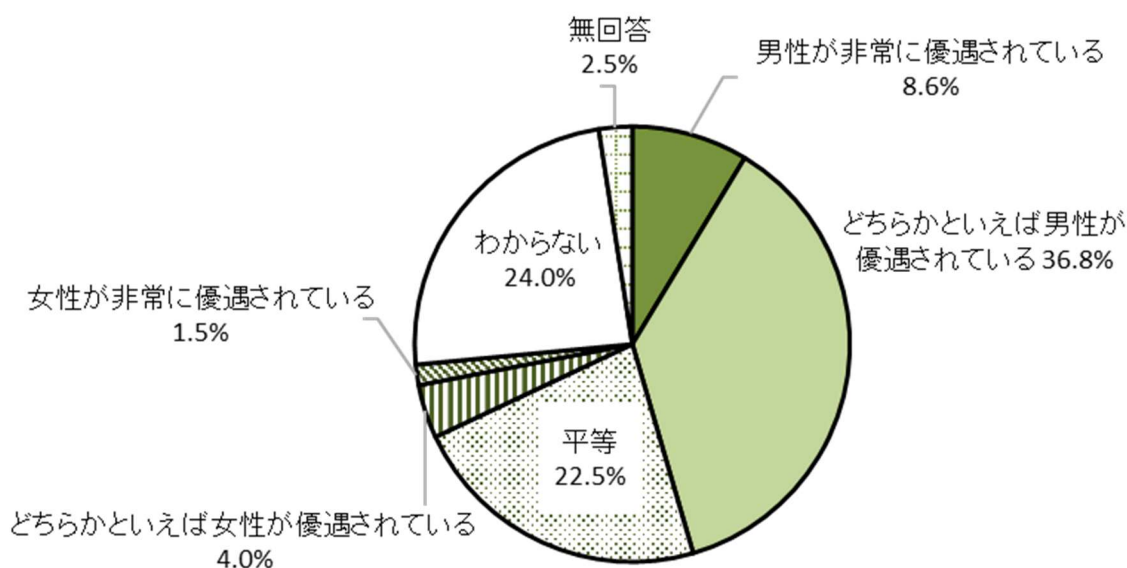
◆女性の社会進出については、83.7%が『推進すべき』と回答しました。

昨年度と比べ、『推進すべき』と回答した人は1.6ポイント高くなっています。『推進すべきではない』と回答した人は、7.1%となっています。



◆職場で男女が平等であるかどうかについては、45.4%が『男性が優遇されている』と回答しました。

『女性が優遇されている』とする方は5.5%、「平等」は22.5%となっています。



●SDGs（持続可能な開発目標）について

◆SDGsについては、71.1%が「知らない」と回答しました。

内容まで知っている人は8.6%でした。年代による差はあまりありませんでしたが、男性の方が女性よりも少し認知度が高い結果となりました。

